

令和6年度 市民意識調査の結果 概要版

調査目的および実施概要

(1) 調査の目的

仙北市を幸福度全国ナンバー1とするため、市民の日常生活と意識・行動を明らかにし、その結果を施策立案の基礎資料や、施策展開のための客観的データとして活用することを目的としています。

(2) 調査の内容

1. 幸福度
2. 地域への愛着やあるべきまちの姿
3. 普段の活動や暮らし
4. 市の施策への満足度・重要度

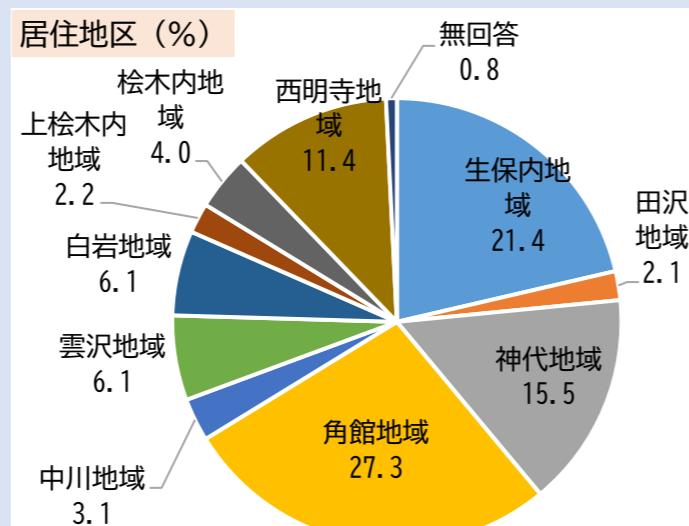
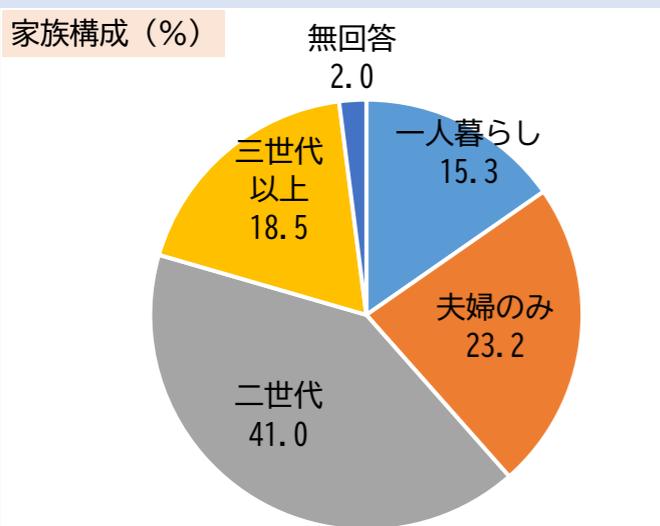
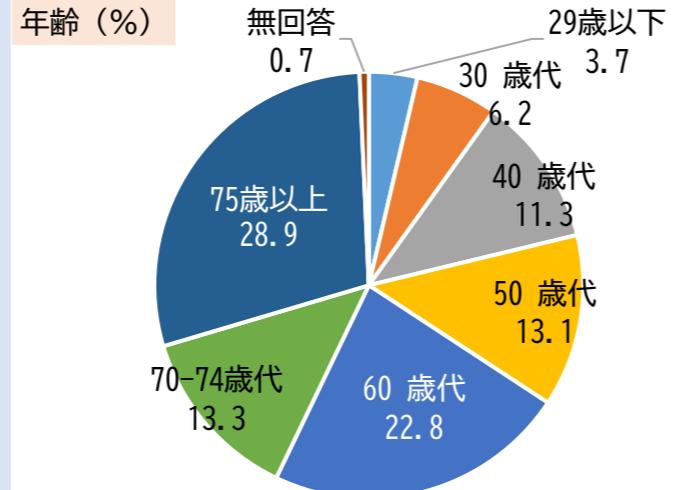
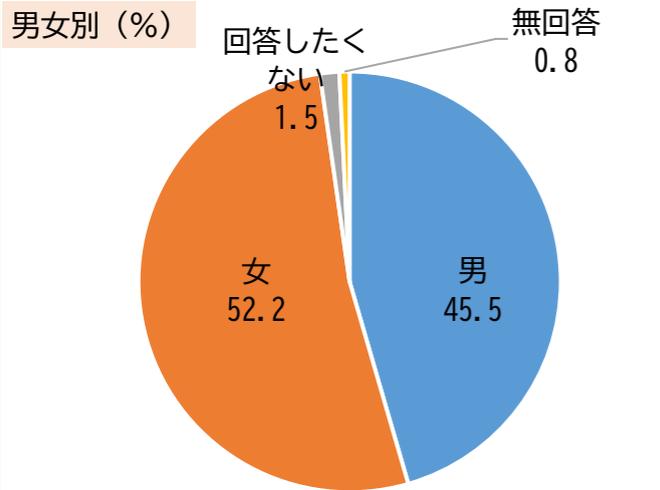
(3) 調査の設計

1. 調査対象：令和6年4月8日現在で市内に居住する満18歳以上の男女個人
2. 標本数：3,000人
3. 抽出用法：18歳以上の各年代別の地区別人口の構成比に応じて無作為抽出
4. 調査方法：郵送による調査票の配布
郵送及びインターネットによる回答
5. 調査期間：令和6年5月2日(木)～5月20日(月)

(4) 回収結果

1. 有効回答数：1,288人（有効回答率42.9%）

回答者について



幸福度について

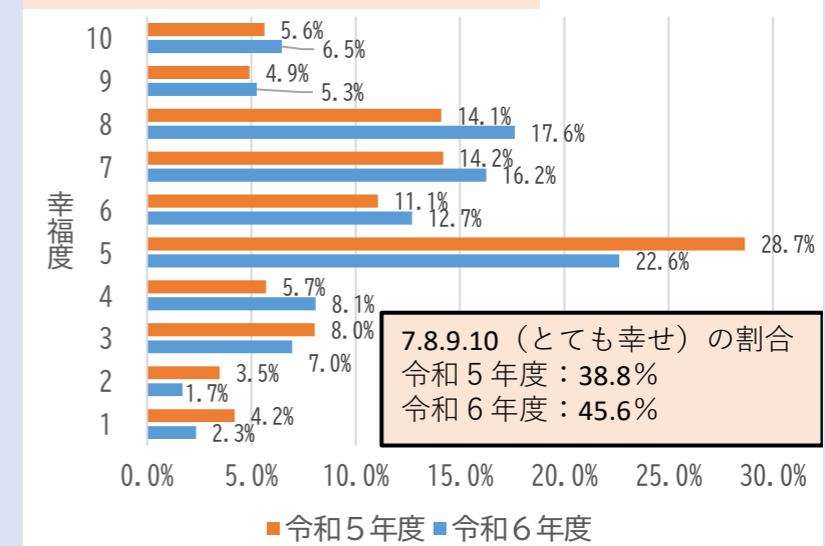
◆幸福度（1～10段階評価）について

「とても不幸」を1点、「とても幸せ」を10点として、現在どの程度幸せであるかをお伺いしたところ、不幸でも幸福でもない中間の「5」を回答した方が多い結果となっています。

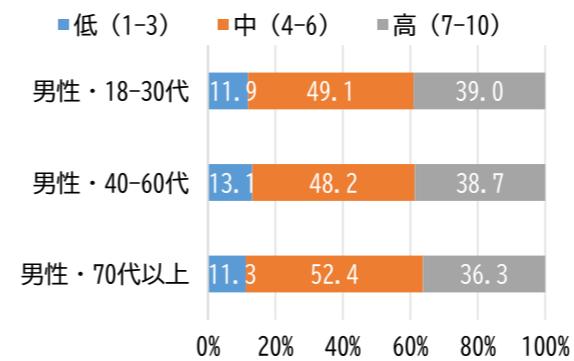
また、幸福度（1～10段階評価）の「1～3」を幸福度「低」、「4～6」を幸福度「中」、「7～10」を幸福度「高」と分類し、幸福度を性別と年代別でみると、女性の方が幸福度において全体的に高い傾向となりました。

※幸福度の割合には無回答は含まれておりません。

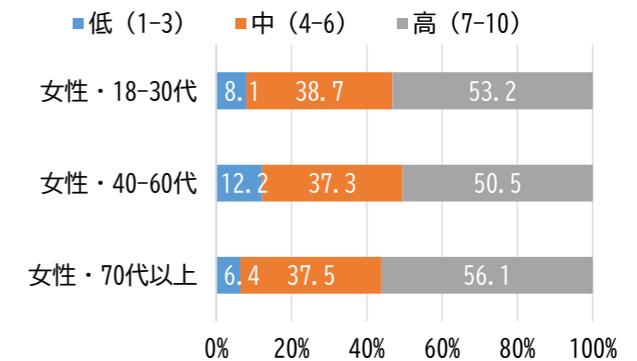
令和6年度と令和5年度幸福度比較表



年代別・性別（男性）の幸福度



年代別・性別（女性）の幸福度



幸福度と7つの項目の関係

(1) やりたいこと（趣味・学び・活動・仕事等）がある

(7) 自分の居場所や役割がある（家庭・地域・職場等）

(6) 頼れる人（家族・友人・地域の人等）がいる

(5) 自分のことを大切に思ってくれる人たちがいる

(2) やりたいことに向けてチャレンジ（準備・実行等）している

(3) 日々の暮らしで生きがいを感じている

(4) 暮らしの中で、健康になれるよう努力をしている

●全体 ●低 (1-3) ●中 (4-6) ●高 (7-10)

◆7つの項目と幸福度の関係

幸福感につながる7つの項目について分析したところ、7つの項目の数値が高い方ほど幸福度が高いという傾向がわかります。

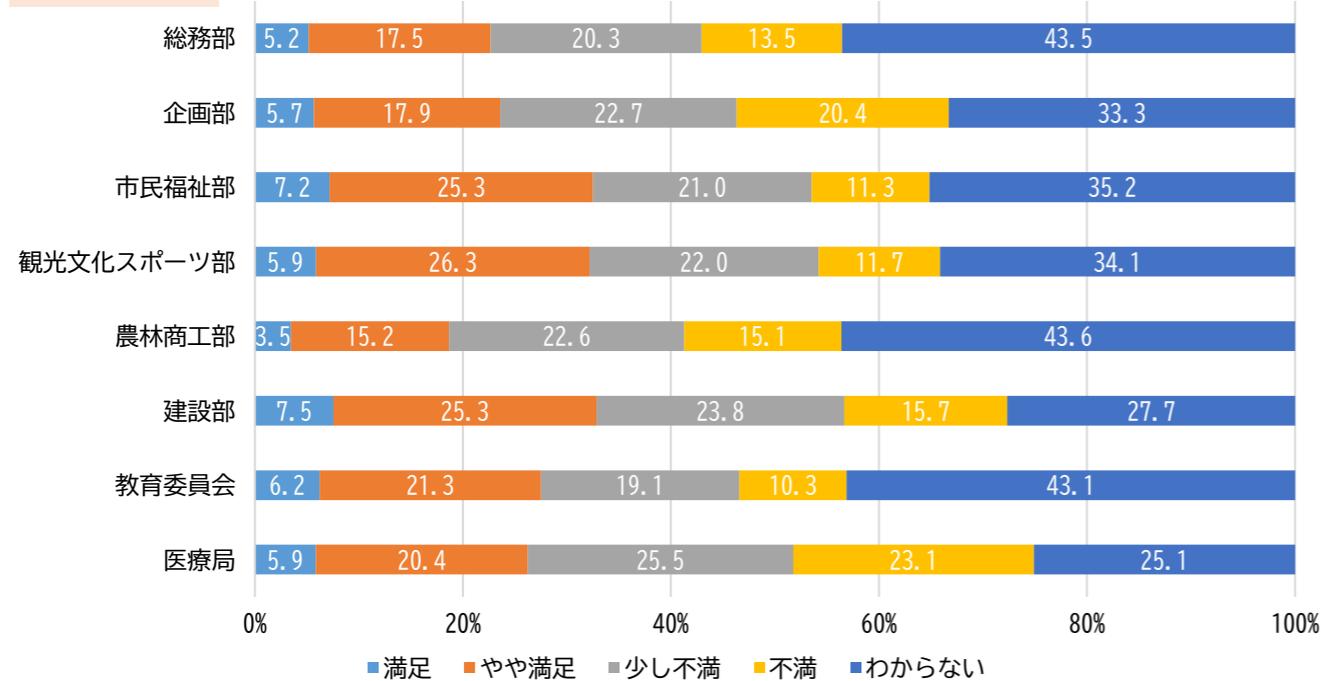
※幸福度は幸福度（1～10段階評価）を「高」「中」「低」に分類したうえで分析しています。

令和6年度 市民意識調査の結果 概要版

施策の満足度と重要度

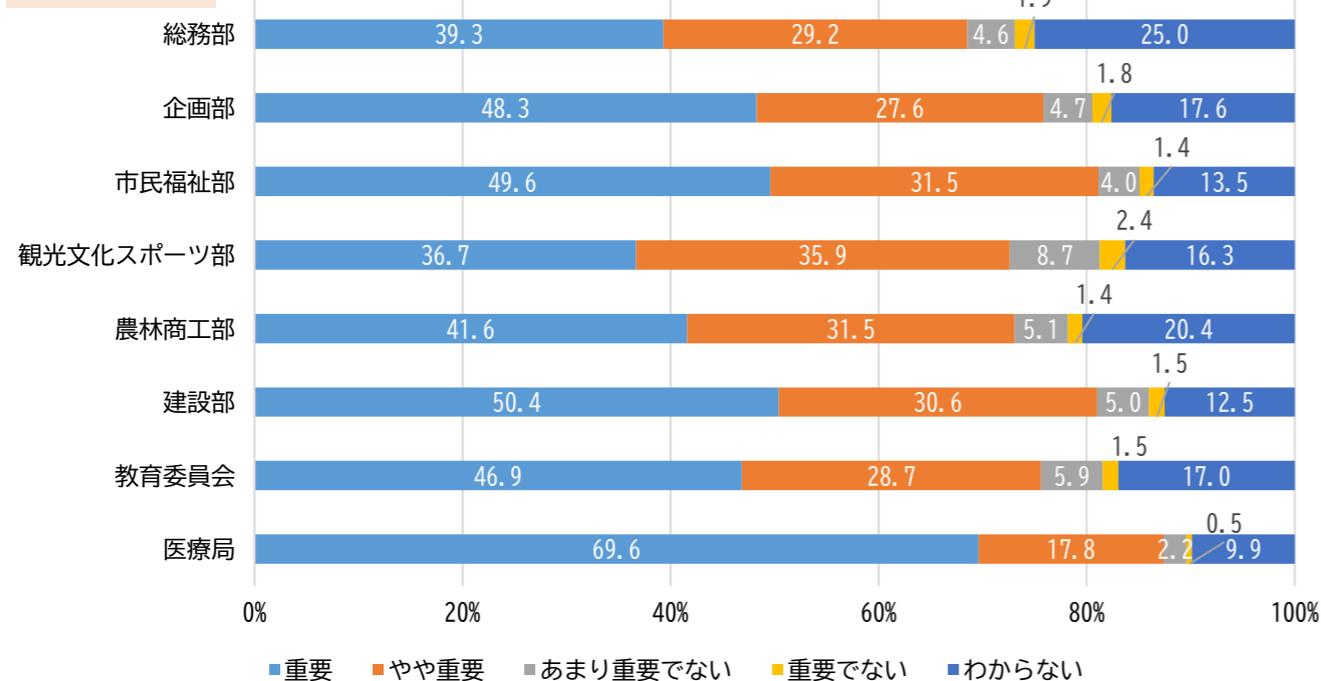
第2次仙北市総合計画(改訂版)で定めた施策に対して現在の満足度と今後の重要度をお伺いし、8つの部局にまとめて集計分析しました。

施策の満足度



一般市民が直接関係する機会が多い「市民福祉部」や「建設部」、目にする機会が多い「観光文化スポーツ部」の施策の満足度は高い傾向が見られた。また、一般市民が直接的に関係する機会が少ない部局の施策については「わからない」という回答が多い傾向が見られた。

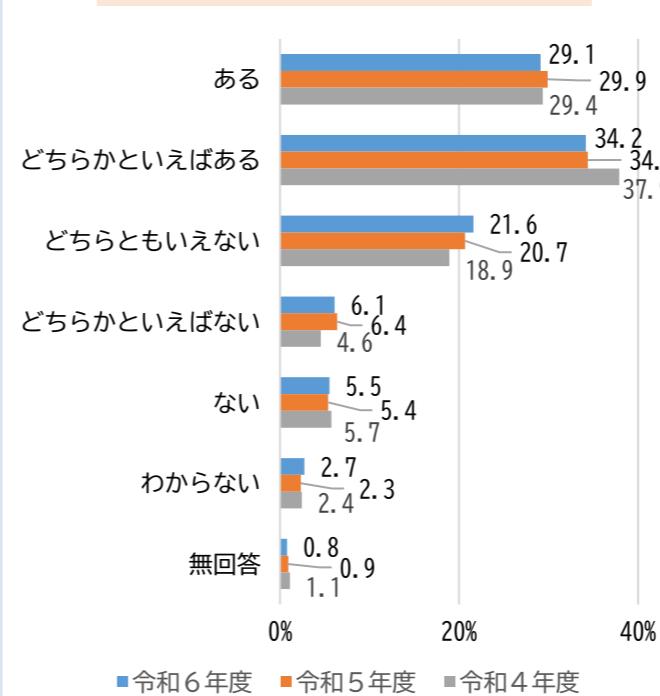
施策の重要度



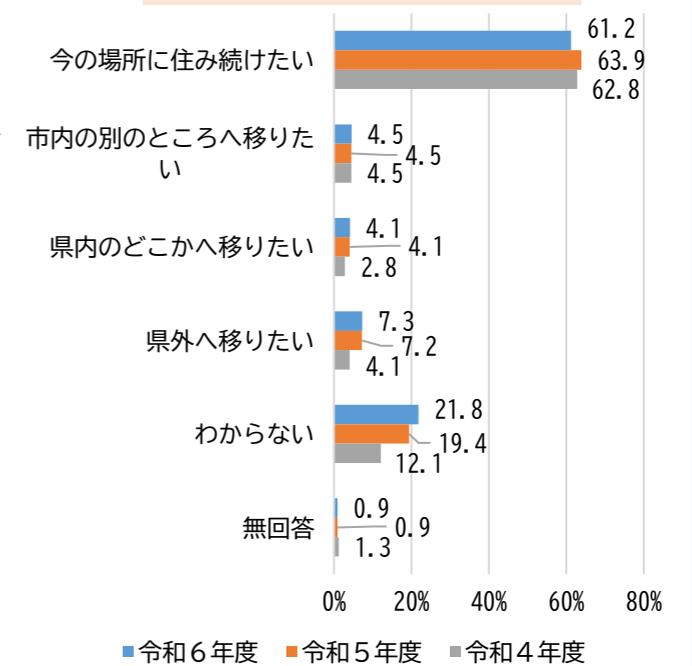
施策の重要度は、市民生活に直結している施策が高い傾向にあり、特に医療分野の突出した高さが目立つ結果となった。

住んでいる地域への愛着など

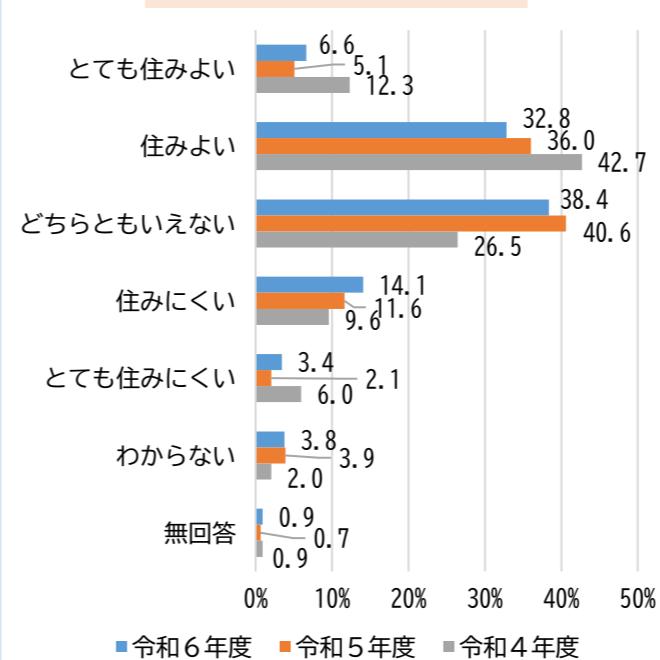
住んでいる地域への愛着がありますか



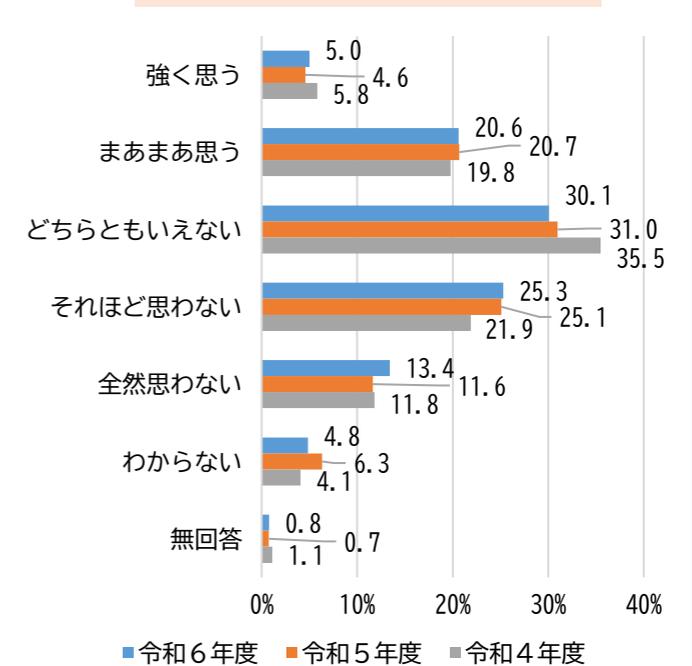
これからも仙北市に住み続けたいと思いますか



仙北市の住みやすさについてどう思いますか



自分の家族や友人に仙北市への移住・定住を勧めたいと思いますか



「住んでいる地域への愛着」、「これからも住み続けたいか」、「移住定住を勧めたいか」という質問については、多少の上下はあるが、ほぼ横ばいの結果となっている。

「住みやすさ」の質問については、2年前に比べ「住みよい」の割合が減少し、「住みにくい」の割合が増加している。